

2020 年度第 4 回大東文化大学大学院評議会議事録要旨

日 時：日時を設定しない

場 所：会議の場所を設定しない

本会議は第 1 回、第 2 回、第 3 回と同様に、新型コロナウイルス感染予防措置として委員間の対面を避けるため、電子媒体（オンデマンド式授業支援システム manaba）を用い、システム内に格納した会議資料、議事を説明する要旨及び前回議事録を委員各自が確認し、議案に係る承認の如何の回答、意見の陳述について同システムを通じて行う方式を採った。なお、議案承認如何の回答、意見陳述の期日・刻限は、当初設定していた会議日時に合わせ 2020 年 7 月 20 日（月）14：00 とした。

構成員：32 名（3 分の 2：22 名 過半数：17 名）

出席者：27 名（定足数充足）

欠席者：5 名

議 長：内藤二郎 学長

報告事項 1. 2020 年度大東文化大学大学院前期学位記授与式について

議長より、資料に基づき、前期における学位記授与式は 9 月 15 日（火）の 10 時で、会場は板橋校舎中央棟多目的ホールである、現時点で判定対象者は 5 名であり、内訳は D 政治学専攻 1 名、D 日本語文化学専攻 1 名、M 経済学専攻 1 名、M 日本語文化学専攻 2 名である、列席者は修了生の属する研究科委員長、決定は 9/4（金）の修了者発表によるが、経済学研究科、法学研究科、及び外国語学研究科委員長に列席を依頼する可能性がある旨報告が為された。

報告事項 2. 2020 年度大東文化大学大学院秋季入学式について

議長より、資料に基づき、式典挙行日時は学位記授与式と同日の 9 月 15 日（火）の 13 時で、会場は板橋校舎 2 号館 2 階 2-0206 会議室である、9 月入学の予定は、7 月入試を実施しなかったため 7 月入試での入学者はおらず、春季入試における【9 月入学】後期留学生方式を受験し合格した、外国語学研究科日本語文化学専攻博士前期課程（国費外国人留学生（研究留学生））生 1 名の後期課程への入学である。列席者は入学生の属する研究科委員長および専攻主任であり、外国語学研究科委員長および日本語文化学専攻主任に列席願いたい旨報告及び依頼が為された。

報告事項 3. 大学院の広報について

議長の指名により幹事より、資料に基づき、大学院の予算における広報費は経年的に削減されてきたが、2020 年度は資料に示した 4 つの媒体に係る計上に基づき前年度比 6.6% 増と若干増額した予算計上認められた、昨年度 7 月の大学院公開説明会のアンケートから、相談会開催を知った手段として「本学ホームページを見て」の回答が最も多く、また、A 社が実施した社会人受験生による受験検討時に参照した情報源調査によると、一般紙の新聞広告はほとんど効果がないことが報告されており、大学院受験に係る情報は Web 上での検索が主流であることが改めて確認された、このことを受け、2020 年度の大学院における広報方針の第一の

柱として「電子媒体への集中化」を設定した、電子媒体（大学院進学情報サイト）は、従来掲載していたB社のサービス（資料【報—3】5ページ表中の①継続）に加え、A社のサービス（同③新規）を追加で導入することにした、第二の柱としては、大学院生の約半数を占める留学生への受験情報提供強化を選定した、留学生への受験情報強化では、従来通り中国人留学生の読者が多いC新聞（同②継続）に募集情報を掲載するが、今年度はこれに加え、D社が提供するサービスである、日本語学校に掲示される「留学生のための大学院研究科入試カレンダー」（同④新規）に本学大学院の入試情報を掲載する、本サービスは紙媒体での情報提供に加え、PC、スマートフォン、携帯での閲覧、情報のダウンロードも可能であり、日本語学校に通う留学生に本学の入試情報を電子媒体で提供するバックアップにもつながることも期待される旨報告が為された。

報告事項4. 2019年度大学院修了時アンケートの集計結果について

議長より、資料に基づき、全学FD委員会が実施した2019年度大学院修了時アンケートについて集計結果がまとめられたが、修了者数40名に対し回答数16名であり、回答率40.0%と前年度の回答数38名、回答率88.4%より著しく低くなったのは、新型コロナウイルス感染症予防措置により学位授与式が中止になり、アンケート用紙を学位記と共に郵送し、同封した返信用封筒で返送してもらって回収する方法にならざるを得なかったためであると看取される、他方で、このような状態で寄せてくれた回答こそが真摯な回答であると考えられ、その真摯さゆえにこれらの回答は傾聴する価値があると思われる、④教育と研究の成果に関わる設問で、論理的思考力が向上したと回答した者が81.3%である一方で、研究成果を分かり易く発表する力がついたとの回答者が37.5%であることは、教育と研究の機能における理論と実践において何らかの不均衡があったことを示唆している、図書館開館時間延長、宿泊施設確保の要望は院生の研究上の便による希望であろう、希望を叶えるための予算確保には学生数とのバランスが必要であるため、より多くの入学者が必要であろうと思われる旨報告が為された。

報告事項5. 新型コロナウイルス感染予防体制下における学内研究施設使用制限措置についてのアンケート調査集計結果について

議長の指名により、大学院担当副学長より、資料に基づき、6月18日（木）に大学院正規生全員（休学・留学・未来日者を除いた125名）を対象にDBポータルを用い実施したアンケート調査を実施した、回答期限は6月25日（木）17時までとしたが39名から回答があり、全体の回答率は31.2%であった、留学生の回答者数は14名で全回答者数の35.9%、同様に社会人は30.8%であり、回答率において留学生は全体を上回っており、本アンケート調査への真摯な姿勢がより高いことが看取される、アンケートから俯瞰される内容として、研究方法としてはネット検索を上げている者が15名（38.5%）、文献精読18名（一部ネット使用者と重複）（46.2%）であった、論文執筆をする場所はほぼ全員が自宅であった（38名）（97.4%）、資料・情報収集方法としては、ネットでの電子情報を上げている回答者が大半（26名）（66.7%）であった、図書館（大学・国会）から借りた図書や古書店、amazon等ネット通販を利用して購入した図書、指導教員から提供を受けた資料等紙媒体の資料の収集を上げた者は半数程度（20名）（51.3%）であった、研究を進める上で何が一番困っているかの質問については、文

学研究科を中心に図書館を自由に利用できないことについて 9 名 (23.1%) が上げていた、研究室が使えないこともほぼ同数の 8 名 (20.5%) であった、この他、4 名 (10.3%) の者が対面の授業がなく教員から直接指導を受けることができないことを上げている他、フィールドワーク、実験、アンケート調査の実施不可、アンケート調査の手法変更が迫られる等、感染症が研究の内容自体に影響を及ぼしていることを上げた者がスポーツ・健康科学研究科を中心に 10 名 (25.6%) あった旨意向が示された。

報告事項 6. 一定の制限に基づく院生研究室使用の緩和措置について

議長より、資料に基づき、資料「大学院生の研究環境復旧に関わる今後の取扱いについて」に基づき、7 月 1 日から院生研究室の使用を復旧させた、7 月 9 日 (木) 時点で、板橋校舎では一日平均、利用者 4.4 名、滞留時間は 3.0 時間、東松山校舎では、2.1 名、5.0 時間、全体では、6.1 名、3.3 時間であった、書道学、英文学及びスポーツ・健康科学専攻では特定の院生が継続的に使用している傾向が見られる旨状況の説明が為された。

議案 1. 2021 年度秋季入試実施に係る方針について

議長より、資料に基づき、秋季入試は当初予定の全専攻が実施し日程も当初の通りとなること、入試要項は秋季入試実施確定を待っての作成となったため、当初完成予定から約ひと月程度遅れているが、入試日程のみ先行して 7 月 6 日 (月) に大学院 HP に掲載したこと、加えて、「日本留学試験」(JASSO 主催) が新型コロナウイルスの影響を受け 例年 6 月に実施している 6 月試験を中止したため、留学生の日本語能力判定の対象を 1 年間遡及する措置を講じ、昨年度と同じ「2018 年 11 月、2019 年 6 月、2019 年 11 月実施分※」とする他、春季入試においては参照可能な 2020 年 11 月に実施予定の直近分を含めるようにするため「2018 年 11 月以降実施分」と改めること、本大学院の留学生入試においても、日本語能力を判定する試験を実施するなど各専攻で工夫していくことの各点からなる 2021 年度秋季入試実施に係る方針について提案された。大学院評議会はこれを承認した。

※2021 年度入試における日本語能力判定に用いる日本留学試験は、本来「2019 年 11 月、2020 年 6 月、2020 年 11 月の実施分のいずれか」である。

以 上